

## 【問題づくり】

- ・②なぜエルフは、「せかいでいちばんすばらしい犬」なのか？
- ・③なぜエルフの方がずっと早く、大きくなったのか？
- ・⑤兄も妹もエルフのことが大好きだったのに、なぜエルフは「ぼくの犬」なのか？
- ・⑬なぜエルフはぼくの部屋で寝なくてはいけないのか？
- ・⑭ぼくはなぜ寝る前に必ず「エルフ、ずうっと、大好きだよ。」と言うのか？
- ・⑳何を飼ってもなぜ「ずうっと、ずっと、大好きだよ。」と言うのか？なぜ毎晩言うのか？

## 【問題の精選】

なぜエルフは「せかいでいちばんすばらしい犬」なのか？

## 【教材解釈】

### 1 場面

ぼくが「世界で一番素晴らしい犬」であるエルフのことについて、回想しながら話す。

ぼくとエルフは一緒に大きくなったが、体の成長具合では、エルフの方が大きく成長した。寝る時もエルフと一緒にであった。兄も妹もエルフのことが大好きだったが、「エルフはぼくの犬だ」と断定する程、ぼくは誰よりもエルフのことが大好きだった。「エルフはぼくの犬だ」と断定した理由は、エルフと一緒にいる時間が僕の方が一番長かったからであると考えられる。

### 〈気になる言葉・押さえない言葉〉

- ・世界…人間が住んでいたり行って見たりすることができる、すべての所。
- ・一番…同じ種類に属する(特徴を有する)ものの中で、他のどれよりも優れていると評価されるものであること。
- ・素晴らしい…これほどのことが実現できるのかと思わせる程、程度がまさっている様子だ。
- ・一緒に…2人以上の人が同じ(連れだって)行動をすること(様子)。
- ・ずっと…(1)時間的(空間的)な隔たりや程度の差が、一般的に予測されるところをはるかに超えている様子。  
(2)物事が、ある時点や地点から、とぎれる(途中で留まる)ことなく続いている様子。
- ・大好き…非常に好きな様子だ。
- ・の…あとに来る言葉が表す内容や状態・性質等について限定を加えることを表す。

### 2 場面

エルフとぼくは、毎日一緒に遊んだ。この部分でも、ぼくがエルフと一緒にいる時間が長いことが読み取れる。エルフが悪さをしても、ぼくを含め家族みんな、エルフのことが大好きだった。しかしこの時家族誰一人、エルフに対して「好き」「大好き」と言わなかった。その理由は、直接そのようなことを言わなくても、心で気持ちが通じていると思っていたからである。

### 〈気になる言葉・押さえない言葉〉

- ・毎日…その日その日。
- ・のに…前件に述べる事柄とは矛盾する、と捉えられるような事柄を表す後件と結びつけることを表す。

- ・ても…通念では矛盾するかに見える前件にも関わらず、後件が成立することを表す。
- ・ね…事の真偽等について相手に確かめる気持ちを表す。

### 3 場面

エルフはどんどん太っていき、また、歳をとって寝ていることが多くなった。その姿にぼくはとても心配し、エルフを獣医に連れて行った。エルフは階段も上れなくなってしまったが、それでも変わらずぼくはエルフと一緒に寝て、寝る前には必ず「エルフ、ずうっと、大好きだよ」と言ってあげた。寝る時、今まではエルフの温かいお腹を枕代わりにしていたが、エルフが歳をとるようになってからは、ぼくがエルフにやわらかい枕をあげた。そのようなぼくの言動(「やわらかい枕をやって」「『エルフ、ずうっと、大好きだよ』と言ってやった」の表現)から、いつも一緒に過ごしていたエルフに対して、ぼくが恩恵を与えたい気持ちを持ったことが読み取れる。

〈気になる言葉・押さえない言葉〉

- ・いつしか…「いつのまにか」の意の古風な表現。
- ・とても…並みの程度を超えていると判断する様子。
- ・心配…気にかかることがあって好ましくない結果になるのではないかと心を悩ますこと。
- ・獣医…家畜や飼育動物の病気を診断・治療する医師。
- ・何も～ない…考えられる可能性の一切を否定する様子。
- ・まもなく…その時点から余り時を置かないで、何かが実現する様子。
- ・～なければいけない…そうすることが必要(最善の選択)だということを表す。
- ・必ず…ある状態について、何らかの(客観性の高い)根拠に基づいてそれ以外の事が起こる可能性が全くないと確信に満ちた判断をすることを表す。
- ・～てやる…相手に何らかの利益(恩恵)を与えるような行為をすることを表す。

### 4 場面

ある日の夜、エルフは死んでしまった。ぼくは悲しくてたまらなかったが、毎晩エルフに「ずうっと、大好きだよ」と言ってあげていたため、いくらか気持ちは楽だった。隣の子から「小犬をあげる」と言われた時、ぼくは「いらない」と言った。その理由は、エルフが亡くなってしばらく飼いたくない気持ちがあったからであろう。その代わりにぼくは、エルフのバスケットをあげてその小犬に使ってもらえるようにした。エルフとの別れはとても悲しいことであるが、今までエルフと過ごしてきた中で、相手が活着しているうちに好きな気持ちを毎日伝えること(「ずうっと、ずっと、大好きだよ」)の大切さを実感することができたため、今後何を飼ってもエルフの時と同じように好きな気持ちを伝えようとぼくは決意した。エルフとの出会いからそのような思いを持つことができたため、ぼくはエルフを「世界で一番素晴らしい犬」と誇りに思ったのである。

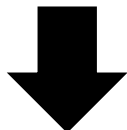
〈気になる言葉・押さえない言葉〉

- ・悲しい…取り返しのない事どもを思い続けて泣きたくなる気持ち(絶望的な感じ)。
- ・たまらない…これ以上の満足感は得られない(これ程ひどい状態はあるまい)と思われる程、程度がまさっている様子。
- ・いくらか…その量・程度等がそれほど多くない様子。
- ・楽…よろこび楽しむ。
- ・いつか…そういう事があった(予想される)時点をいつのことだと限定せずに表す様子。

- ・ だろう…そうである(そうなる)ことが十分に推量・想像できることを表す。
- ・ きっと…物事が見込み(期待)通りに行われると確信をいただく様子。

【追求の対象】

- ・ ⑨ すきならすきと、いってやればよかったのに、だれもいってやらなかった。いわなくっても、わかるとおもっていたんだね。



ぼくの、エルフに対する言動の変化

- ・ ⑭ ぼくは、エルフにやわらかいまくらをやって、ねるまえには、かならず、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と  
いってやった。エルフは、きっとわかってくれたよね。